

「学ぶ力」		
実態	成果	課題
	◇札幌市の共通指標から、「自分で計画を立てて勉強している」の割合が全市平均を大きく上回っている。また、「自分の意見を進んで発言しようとしている」や「学習で困っている友達に声をかけたり一緒に考えたりするようにしている」も全市平均を上回っており、本校の教育目標でもある、自立・共生・創造を土台として、目標をもち、それに向けて努力できる生徒が増えていると思われる。これまでの学ぶ力を育成してきた成果が表れているのではないか。	◇札幌市の共通指標から、「自分で計画を立てて勉強している」は全市平均を上回っているものの、59.0%と他の項目に比べて最も低くなっている。ただし、2年連続で上昇してきており、引き続き、計画の立て方を指導していく必要がある。また、『「札幌っていいな」と感じることもある』は、市平均から一番下回っている項目のため、郷土の魅力や誇りに気がつける手立てを講じていきたい。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題		
◇札幌市の共通指標の相互承認に関わる項目については、全市平均を下回っているものの、「人の役に立ててうれしいと感じることがある」「人の役に立つ人間になりたいと思う」については、ともに90%を超えており、2年連続で肯定的な回答の割合が上昇してきている。他者との対話的な学びとなる場面を設定し、自分の意見を発言する機会を多く設け、他者からの承認、他者への承認を感じられる経験を積み重ねていきたい。		
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力		
主体的に取り組み、自分の考えを確かにもちながら学びを進めること		
取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	(1)本校研究副主題にもとづいた「個別最適な学び」の実現 毎時間の課題を一律のものに留めず、問題提起等、個々に学びの必然性を想起させることを意識した授業づくりに取り組む。 (2)本校研究副主題にもとづいた「協働的な学び」の実現 AARを導入・展開・終末といった今までの授業の流れに当てはめ、生徒が他者を求め、対話によって思考を再構築する活動を取り入れる。	①自分たちの問題を自分たちで解決する 生徒主体による校則の見直しを継続していく。 ②一人一人が「自分が大切にされている」ことを実感できる 教師が丁寧に生徒の頑張りを見取る目を養うと共に、生徒がより高い目標を目指せるように育成していく。
	「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について	
◇自由進度学習など、個別最適な学びを実現するための方途として、生徒自身が学びのコントローラを持っていると感じられる学習場面を構築していく。 ◇パートナー校との連携した取り組みとして、昨年度に引き続き「コミュニティ・スマイル」運動を開催し、オンラインミーティングを通して、子ども同士の顔が見える活動を継続する。		

<本プログラムの実行に向けて>

